

明治大学ラグビー部 インカムアプリ Buddycom 採用 ~Buddycom はスポーツ SDGs 宣言に賛同、応援します~

株式会社サイエンスアーツ(所在地:東京都新宿区、代表取締役社長:平岡 秀一)は、明治大学体育会ラグビーフットボール部(以下 明治大学ラグビー部)のメディカルスタッフ、トレーナー、学生スタッフ間の情報連携ツールとして、デスクレスワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom(バディコム)」が採用されたことをお知らせします。



この度サイエンスアーツは、スポーツ SDGs・CSR の一環として、明治大学ラグビー部に Buddycom を無償提供し、1 τ 月間のトライアルを経て 2022 年 8 月に本採用されました。

Buddycom導入前

選手が練習中に怪我をした際に、素早くメディカルスタッフと学生スタッフが情報連携し、選手の怪我の対応をスムーズにしたいという課題がありました。その課題を解決するためには、動いてもコードが邪魔にならない Bluetooth で繋がるインカムが必要でした。

Buddycom導入後

明治大学ラグビー部では平日の朝 6:30 から 8:00、選手、監督、メディカルスタッフ、トレーナー、学生スタッフが一丸となって練習を行なっています。 メディカルスタッフ、トレーナー、学生スタッフ間のコミュニケーションにインカムアプリ Buddycom を利用することで、グラウンド全体の情報連携を可能とし、朝 90 分という短い中でも無駄なく洗練された練習・指導が実現されました。

明治大学ラグビー部の導入事例ページはこちら: https://www.buddycom.net/ja/example/example-article30.html

明治大学ラグビー部の導入事例動画はこちら: https://youtu.be/JeAD4YBd6Zs

明治大学ラグビー部では、Buddycomの他にも、ドローンを使った練習風景の撮影・分析、アプリを使った体調管理などの最新技術を使い、日本一を目指して練習を行なっております。

サイエンスアーツは、スポーツ庁によるスポーツ SDG s 宣言に賛同し、本件にとどまらず、Buddycom の提供を通じてあらゆるスポーツシーンを応援することで、社会におけるスポーツの価値向上と、スポーツによる SDG s 達成に貢献してまいります。

※スポーツ SDGs 宣言とは・・・スポーツ庁が提唱する「スポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力を使って、SDGs の認知度向上、ひいては、社会におけるスポーツの価値のさらなる向上に取り組む」という宣言のことです。 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/1410259.htm

■明治大学ラグビー部について (https://www.meijirugby.jp/)

明治大学ラグビー部は 1923 年に創部されたラグビーの伝統校です。部のエンブレムはペガサスです。「前へ」の精神に現代ラグビーの要素を取り入れ、ファンの皆様に感動を与えられるようなラグビーを目指すとともに大学日本一を目指して活動しています。

■ Buddycom とは (https://www.buddycom.net/ja/index.html)



デスクレスワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム 「Buddycom」は、音声や動画、位置情報(IoT)に加え、AI を利用したデジタルアシスタントでのコミュニケーションが可能です。

利用実績では、航空、鉄道、建設、福祉施設、流通など様々な業種でのコミュニケーション手段として利用されています。

株式会社サイエンスアーツについて

サイエンスアーツは、「世界の人々を美しくつなげる」をミッションとして掲げ、デスクレスワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom」を提供しています。「Buddycom」は既に 600 社を超えるお客様の現場で活用されており、音声のみならず、テキスト、画像、動画、位置情報、AI などを活用することにより、あらゆる業種・業界のミッションクリティカルな現場において、新たなチームコミュニケーションを可能にするホリゾンタル×SaaS アプリケーションです。

◆ お問い合わせ先

【社名】株式会社サイエンスアーツ 【所在地】東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル7階 【代表取締役社長】 平岡 秀一 【資本金】 5,000 万円 【設立】2003年9月 【E-mail】 <u>pr@science-arts.com</u> 【Web サイト】 <u>https://www.buddycom.net/</u>